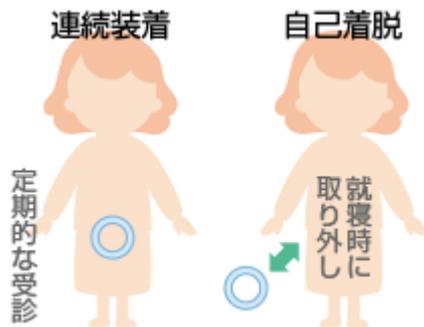


骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC)

(平均入院期間：7-8日)

女性の骨盤内臓器である膀胱・子宮・直腸は筋肉（肛門挙筋）や筋膜などで支えています。おもに妊娠・出産で肛門挙筋・筋膜・神経などが損傷を受けると、骨盤臓器の支持機構が破綻して膣の入口から骨盤臓器が落ちやすくなります。陰部下垂感・陰部にピンポン玉のよう



なものが触れる・椅子に座るとボールの上に座っている感じがするといった典型的な症状や、トイレが近い・尿が出しづらい・排尿してもすっきりしない・尿が漏れてしまう・便秘などといった膀胱や直腸に関連した症状が出ることもあります。

保存的療法としては、ペッサリーリングの自己脱着を指導します。

しかし、保存的療法は長く行うべきではなく、いいタイミングで手術療法を行うことをお勧めします。当院では、**腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC)** を導入しております。また従来の膣閉鎖術、TVM手術も状態に応じて継続しておりますので、気になる症状がありましたらお気軽にご相談下さい。

